令和８年度　第３回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）議事録

１　期　日：令和８年１１月５日（木）14:30～16:30

２　場　所：有田工業高校　会議室

３　出席者：外部委員９名（校長含む）、欠席３名
　　事務局：本校職員１３名

４　議事録

(1)開会

以下の３点について連絡し、出席されている委員に承諾を得た。

・「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」の第８条に基づき、本協議会は公開であること
・傍聴希望は、本日は傍聴希望なし。
・議事録作成や活動実績報告のため、事務局で音声記録や写真等を撮ること。

(2)学校長挨拶

以下の４点の内容に触れ、挨拶とした。

・教育振興課より２名、学校魅力化アドバイザー２名の出席のお礼
・9 月に実施した面接指導週間のご協力へのお礼
（学校運営協議会の委員３名、PTA 役員 3 名の方々にご協力いただいた）
・現在の 3 年生の進路の状況：11/1(月)時点での、就職希望者 96 名のうち内定者８1名、進学希望者 44 名のうち内定者 22 名。就職試験 2 次募集や進学希望の生徒は今後試験が随時行われる。
・２学期が始まってからの学校の様子
①10/9㈭に体育祭の実施報告
・平日であったが、多くの保護者の参観いただいた。
・体育祭の競技の１つで 60 年以上の歴史を持つ「珍代五種」という競技では、新たに女子の部が実施された。
②10/24㈯・10/25㈰の「全国産業教育フェア」の報告
・本校の体験ブースでは「ろくろ体験」と「缶バッヂ制作」を実施し、ろくろ体験には 170 人ほどの参加があった。
③ 11/13㈭・11/14㈯の 2 日開催に開催する文化祭に向けて準備中。
・文化祭においても生徒会を中心に、2 日目の一般開放日に、新たな地域との連携に取り組もうとしている。
④10/15(水)～10/22(木)学校公開週間の報告
・平日の実施であったが 14 組の参観（中学生の保護者 5 組、中学生 2 人）の参観があった。

(3)佐賀県教育委員会事務局（教育振興課）挨拶

・地域みらい留学、魅力化促進事業の実践に係る業務協力へのお礼
・地域みらい留学の業務に係る東京合同進学説明会の報告と現役の地域みらい留学生の協力へのお礼

(4) 説明・報告事項（進行は会長）

①部活動(上半期)の実績報告について
・全日制の主幹教諭及び定時制の教務主任より、配付資料をもとに、令和９年度部活動(上半期)の実績を報告した。

・全日制の表彰については、数地区や県、全国レベルでの表彰があった。全国レベルでは、放送部の全国大会での受賞、ウェイトリフティング部の全国大会への出場があった。今年度の表彰数(103)：体育部 21、文化部 82 で、昨年度の表彰数(118)：体育部 32、文化部 86 であった。
・定時制の表彰では、主な受賞として、全国総体（定時制・通信制）で、男子砲丸投げでの全国 4 位、バドミントン（女子シングルス）の出場があった。また、第 74 回佐賀県高校生徒生活体験発表会（定時制・通信制）で、佐賀県労働局長賞の受賞があった。

②学校評価における中間評価について
・全日制及び定時制の教頭より、配付資料をもとに、学校評価における中間評価について、学力向上、進路指導、人権教育、いじめ防止、健康づくり、働き方改革、特別支援教育、地域連携の各項目について説明した。

【全日制】
・今年度：A 評価： 9 個、B 評価： 1 個（R7 年度：A 評価 6 個、B 評価： 4 個）
・学力向上：年 2 回の授業研究週間を実施、指導力向上を図っている。
・進路：就職 8 割、進学 2 割。
・心の教育：ホームルーム人権同和教育についてのホームルームを実施し、10 月末に児童支援教諭による生徒・職員向け人権同和教育講演会を実施。
・いじめ：いじめアンケートを学期に 1 回実施。年間 3 回の実施。学期の初めに個人面談週間を実施。いじめ認知件数 0 件。
・健康/体づくり：食育アンケート、保健だよりの発行。健康診断の受信勧告の受信率が低かったので B 評価。
・部活動：「SSP Batons」予算でスポットクーラー、冷水機などを購入。
・働き方改革：毎週水曜日に定時退勤推進日を実施。今年度、「業務管理・健康確保措置」の実施により、年度途中中からであったが、職員朝礼を週 3 回の実施とした。
・特別支援教育の充実：特別支援教育の委員会を学期に 1 回実施。生徒の支援が必要な生徒についての情報共有を実施。
・地域との連携:「地域から大切される雰囲気を感じる」生徒の割合 85.9%。一方で、「この学校を中学生に勧めたい」と回答する割合の向上が課題として示された。
・学校魅力化促進：主幹教諭と学校魅力化コーディネーターで県内・県外の佐世保松浦地区の中学校 23 校を訪問し、体験入学の案内や高校入試の概要説明を実施。

【定時制】
・前期分の出席率：93.1%達成
・学力向上：保護者・生徒とも 91%を達成
・就職及び進学：現在も進行中だが、今のところ出願生徒については全て内定
・心の教育：91%達成
・いじめ認知：0 件
・5S（整理・整頓・清潔・清潔・しつけ）：平均値 3.2 を達成
・生徒会活動：生徒・職員ともに目標値達成
・業務改善：教職員の働き方改革の推進、45 時間を超える職員ほぼ 0
・特別支援教育の充実：困った時に相談相手の方が分かってる生徒は 3. 30

・本年度重点的に取り組む独自評価項目である情報発信：自分の学校中学生専門のことができる生徒の割合は 93%、教職員 91%
・セラミック科展、年 2 回開催、デザイン科展において、地域への情報発信ができている

(5) 協議事項（進行は会長）

①業務管理・健康確保措置の実施について

・全日制教頭より資料をもとに以下の４点について報告した。

【説明の概要】

・資料の「業務管理・健康確保措置の実施」についての意見聴収シートにて、各科及び各校務分掌から、ボトムアップで業務改善について意見を聴収した。
・「業務の分類」の ABC は、に文部科学省が昨年度 10 月に提示した「学校と教師の業務の３分類」の ABC である。
A: 取り組むことが望ましいと考えること
B: 取り組めそうなこと（見込み）
C: 学校全体で「取り組んでみては」と考えること（提案）
・添付資料の「佐賀県教育委員会からの通知文」、「学校運営協議会において承認を行う基本的な方針の内容に関する改正」の関係資料、「公立の義務教育諸学校の教職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律」及び「地方行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正について、簡潔な説明をした。
・各科及び各校務分掌から出された意見をもとに、学校全体として以下の４つの成果指標を掲げて取り組むこととした。
・現在、全日制では職員朝礼の実施を週３回（月・水・金）に減らし、教職員の時間的ゆとりの創出などに取り組んでいる。

【成果指標①】学校全体の「業務管理・健康確保措置」において、
「A：学校以外が担うべきと考える業務」について、業務削減を１項目以上取り組み、学校以外に担ってもらう。
【成果指標②】各分掌・各科の「業務管理・健康確保措置」において、
「B：教師以外が積極的に参画すべき業務」について、業務削減を１項目以上取り組み、教師以外に参画をお願いする。
【成果指標③】各分掌及び各科の「業務管理・健康確保措置」において、
「C：教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務」について、業務削減を１項目以上取り組み、教師の負担軽減を促進する。
【成果指標④】健康確保措置について、１項目以上を１年目に取り組む。

【意見提示】学校運営協議会の委員より、学校の業務内容及び以下のような意見が出された。
・支援員（特別支援）各クラス１名の配置についての質問
・交通安全指導の負担と実施状況について質問
・学校案内作成業務の集中について質問
・会計業務のリスクなどについて

➡学校運営協議会として、「業務管理・健康確保措置の実施」について、基本方針を承認した。

(6)意見交換

【テーマ】「「第１回高校魅力化評価システムアンケートの結果の考察と意見交換」
・佐賀県学校魅力化アドバイザーより、資料をもとにデータの解説及び概要説明。

【流れ】

① データ共有その１：有田工業高校の強みと課題 （5 分）
② 強みと課題について「共感／違和感」の付箋出し・共有 （15 分）
③ データ共有その２：カリキュラム・ポリシーの実現状況 （10 分）

下記の３つの中からテーマを選び、そのテーマに合わせた KPT の付箋出しワーク

【グループワーク】

④ Keep：継続したい強みの付箋出し（10 分）
⑤ Problem：課題の付箋出し（10 分）
⑥ Try：次の一歩・新たなアイディアの付箋出し（10 分）
⑦ 全体共有（10 分）

○各グループから出た主な意見は次のとおり。

【Keep（継続したい活動）】

▼A グループ
・各科の工場見学、外部講師による授業、陶芸交流授業、伝統工芸士による授業
・実習時間の職場体験
・卒業制作展、課題研究発表会、セラミック科展
・アルバイト（陶器市アルバイト等）
・体育祭、文化祭、文化祭の全校生徒のモニュメント製作、マラソン大会、芸術鑑賞会

▼B グループ
・地域みらい留学のシステム
・地域学習活動、地域行事への参加、陶器市など町独自の伝統的行事との関わり
・青年会議所との連携
・卒業制作展、マラソン大会

▼C グループ
・地域学習の日、地域での教育活動、地域との接点
・課題研究（テーマを地域課題から見つける)、デザイン科の地域課題の解決にかかる課題研究
・陶器市アルバイト
・マラソン大会
・まいにち更新（学校の教育活動を知らせること）

▼D グループ
・陶器市アルバイト、地域学習の日
・地域の方との繋がりある学校行事（体育祭・文化祭等）
・学校の中だけでとどまらず、学校外や地域の人と学んでほしい
・企業見学など有田特有の企業を見る・知ることができる
・有田工業高校の生徒はよく挨拶している（朝の挨拶運動）
・実習、専門的な学習、講師による講演

【Problem（改善したいこと）】

▼A グループ
・もっと地域が先生になる（部活・窯業・工業・生産）
・体育祭・文化祭の準備期間
・設備の新品化
・2 学期中間考査の期間（3 年生は就職試験の次週で勉強や切り替えができない）
・先生方の業務削減（スクラップ&ビルド）
・新しい取組が増えているものの、時間には限りがあるのでやりくりが大変

・プロＶのあり方（もっといい方法がないのか…）

▼B グループ

・地域学習の成果が出ているか
・「地域の課題解決方法を考える」は難易度が高く考えようとしてないのでは？
・甲子園出場により「この学校に入ってよかったと思う」の項目が高かったのではないか？
・競合校に負けているのでは？お勧めの減少では？
・校則を少し変える
・セラミック科の魅力をもっと増やす→生徒を増やす
・課題研究の時間をもっと欲しい（2 年後半から）

▼C グループ

・生徒の本音（日常：トイレ等、学校行事への不満）の改善策
・中学生にお勧めできる環境づくり
・中学生のお勧めできない理由、原因は何であるか
・校則の見直し、時代に合った校則、校則を守らない風潮の改善
・行事の全校協力体制がある反面、日常生活では生徒の人間関係などあまり良くない環境であること
・トイレ汚い、行事でいろいろ生徒の自由度に欠けるところ
・学校魅力化評価アンケートの結果で、地域の課題解決が低い点、地域の課題に触れる場面があるのか
・それでも定員割れするのは、宣伝不足？
・喜びのある学び≠仕事の効率化
・マラソン大会短くなりすぎ

▼D グループ

・地域との学び・つながりが増えて良い学習ができていると思う反面、学校推奨度が低いのはなぜか
・施設・設備を改善してほしい（予算の問題もあると思うが）
・校則を見直してほしい
・学校に行事・校則・勉学等で出た生徒からの意見をまとめてほしい
・生徒の要望をもっと聞く、ダメな理由を出してもらう

【Try（Keep をさらに充実、Problem を解決できそうな活動）】

▼A グループ

・課題研究発表会の対外的な PR
・文化祭で販売する作品を作る
・研究・開発した物も販売する
・モニュメント（文化祭の恒例に）
・広報活動
・このタイミングでここでしかないもの

▼B グループ

・他の高校との交流（行事）
・たくさんの行事の中に地域も交える
・プラス面に目を向けられるようになる
・留学生の受け入れ
・寮の設置で広域での募集、寮が欲しい
・定時の給食を地域みらいの生徒の夕食に

▼C グループ

・生徒会活動の活性化（学校を変えるのは生徒の力ということを感じられる取組）
・生徒会の権力向上
・生徒の新しいアイディアや発想を大切にする、そのための雰囲気の醸成
・学校行事での一体感・雰囲気を日常の学校生活でも継続できる環境や仕組み
・生徒の想いや考えを意見表明する場の設定
・他校の学校行事を先生方にも見てほしい（学校行事参加の先生方の熱を感じる）

・大人の価値観の見直し、「普通」は「普通」ではない
・先生たちももっと学校行事を楽しもう
・科を超えた知の対抗行事（新タワーを作る大会とか）
・マラソン大会 30 キロ復活、マラソン大会の距離をもう少し長く（男女同じに）

▼D グループ
・地域の課題解決方法を考えること
・「学習で自分ができること・したいことが増えている」が全国平均より高いこと
・陶器市などアルバイトから関われること
・たくさんの資格を受けることができるところ、技能を身に付けられるところ
・部活動にボランティア部がある
・学校外の方と話せることでコミュニケーション能力や自主性が育むことができるところ

5　諸連絡

・次回の第４回学校運営協議会は１月下旬～２月中旬開催予定
・旅程確認票の提出

6　閉　会

○学校長より閉会の挨拶
・学校長より協議及び意見交換について謝辞。
・今後も有田工業高校が地域に根差した学校として、「地域を愛し 地域に愛される学校づくり」の推進に努めていくことについて決意を語り、閉会の挨拶とした。